

# News & Scope Handai Hospital

阪大病院ニュース

第52号

発行/大阪大学医学部附属病院広報委員会(総務課)  
http://www.hosp.med.osaka-u.ac.jp

住所/〒565-0871大阪府吹田市山田丘2-15 TEL/06-6879-5021

禁転載 (この紙面は再生紙を使っています)

## 患者さんに癒しと安心を 患者サービス企画室 設置から1年半 ご意見箱への声生かし

患者サービスの向上並びに充実・強化に資するため、平成24年4月にホスピタリティ・アメニティ担当副院長である越村利恵看護部長を室長として「患者サービス企画室」を設置しました。既に1年半が経過しましたが、患者さんからのご意見を伺うだけでなく、患者さんの立場に立ってどうすれば快適な病院になるのかを職員一人ひとりが考えるようになったことが、設置後の最も大きな変化の一つです。

これまでの活動を紹介しますと、まずは正面玄関スロープの修理や駐車場の段差解消などバリアフリーを充実させました。次に外来棟1階の男女トイレを全面改修し、バッグなどが掛けられるフックを取り付けました。そのほか、授乳室の椅子の増設、男性トイレへのおむつ替え台の設置、病棟トイレの夜間の清掃強化など施設面の整備を行いました。

続いて、患者さんの憩いの場であるホスピタルパークの樹木に名札を付け、外来棟にはギャラリイ感覚の展示コーナーII写真IIを設置し、定期的に展示作品を入れ替えるなど、院内環境の整備も行っています。

病棟と外来には「ご意見箱」を設置していますが、ご意見がどのようにつながるかをお知らせする「ご意見専用掲示板」も昨年12月に設けました。

ご意見では特に院内での携帯電話使用に関するご要望が多く寄せられたことから、「大声を出さない」など「使用上の注意」を守っていただいたうえで、外来棟では通話許可の掲示がある場所で、病棟では個室やデイルームで使用できるよう改善しました。

また患者サービス企画室では、毎年患者満足度調査を行っており、最新データでは、入院患者さんの92.5%、外来患者さんの87.2%から「大変満足」「やや満足」とのご回答をいただいています。

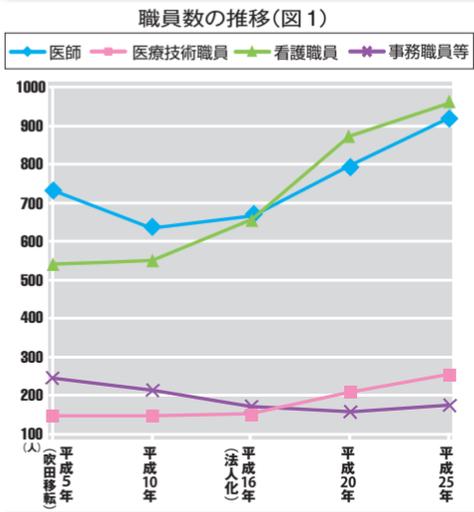


入院中の子供達の作品も展示している展示コーナー

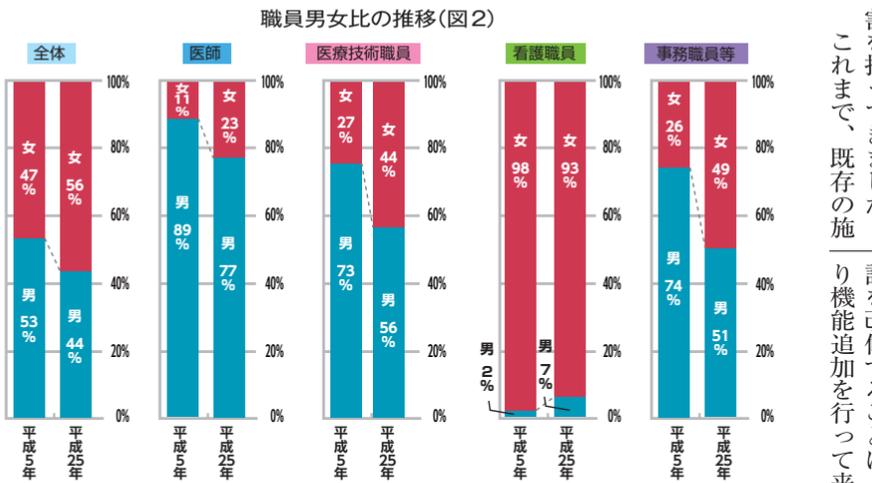
入院患者さんの92.5%、外来患者さんの87.2%から「大変満足」「やや満足」とのご回答をいただいています。しかし、「診察前後の待ち時間が長い」「医師や看護師が変わることがあり不安」など、なかなか解消できない課題も指摘されています。

越村室長は「患者サービスの向上やホスピタリティの充実も大事ですが、患者さんの不安を取り除き、安心して気持ちよく診察・治療を受けることができるように、何をすればよいかを追求することが、最大のサービスだと考えています。まだまだ課題もあります。提供するために、患者さんのご意見を一つひとつ伺いながら、職員全員一丸となって取り組んでいきたいと思っています」と話しています。

## 再開発企画整備室を設置 環境整え「魅力ある病院へ」



本院は、平成5年に中之島キャンパス(大阪市福島区)から、将来の電子カルテ化に対応できるように「インテリジェント・ホスピタリゼーション」を掲げ、全面移転しました。移転後20年の間には、全臓器の移植を実施できる臓器移植認定施設、大阪府災害拠点病院、大阪府総合周産期母子医療センター、地域がん診療連携拠点病院指定、ドクターヘリを有する高度救命救急センター、先進的な医療技術の開発及び国際医療に対応する未来医療開発部の設置等、大病院として求められる様々な役割を担ってきました。



設を改修することにより機能追加を行って来ましたが、医療スタッフ数は移転当初と比べて大幅に増加しており、特に看護師については、移転当初(平成5年度)は約550人であったのが、7対1看護体制の導入、手術・臓器移植件数の増加に伴うインテンシブユニット(ICU等)の拡大等により、現在(平成25年度)は、約950人と、1.5倍以上になりました(図1参照)。さらに、様々な医療機能、疾患に対応するために、医師も大幅に増加し、医療技術部門においても医療のニーズに合わせ、多職種のスタッフが増加しています。また女性職員の比率も増加(図2)しており、移転当初に想定していたスタッフの専用スペースでは対応できなくなっており、厳しい環境の中で、医療に従事している状況です。

今後は、更なる先進医療の推進、高度急性期病院としての発展、全臓器の移植件数の増加や国際医療の充実強化等に対応するため、現状の機能を大きく変えていく必要があります。そのため、今年度から、事務部の中に再開発企画整備室を立ち上げ、併せて院内に再開発委員会を設置して、病院の再開発計画の検討を開始したところです。

病院再開発を行うにあたっては、本院の敷地が吹田市、茨木市にまたがっていることによる行政面の課題のほ

か、診療体制の維持、将来の医療への展望、アメニティの充実強化、財政面の考慮など、様々な課題が山積してきます。再開発企画整備室では、再開発委員会を中心に、これらの課題を一つずつクリアしながら、文部科学省と協同し、「魅力あふれる大病院」を創りあげられるよう再開発計画の策定を進めています。



## 貼り絵で四季の彩り

3年前には、病院側とボランティアとの懇談会をきっかけに、これまでの規模を拡大。外来棟2階のガラス面全面と待合室全体を使用し、統一感のある四季の装飾を行うようになりしました。

貼り絵はボランティアが控室で作成し、貼り替えの際は、1階から眺めては意見を出し合っています。これからは心と空間を創り出せるよう、頑張っていきたいと思っています。



## 外来棟ガラス面を 活用し心と空間を

### 新診療科長等ごあいさつ



●病理診断科長  
もり い えいち  
森井 英一

病理診断は、その結果が治療方針を左右することが多く、重い責任を伴います。病理診断科では多くの病理専門医、若手病理医が日夜診断を行っており、できるだけ短時間に正確な診断結果を出し、診療に貢献するよう努力しております。各科とのカンファレンスも多く、緊密な連携のもと診断精度の向上を目指しています。病院機能の発展のため、今まで以上に人材育成を含め注力していきます。

(平成25年10月1日就任)

# 難病患者に最先端医療とケア

## 神経内科・脳卒中科



最善の医療を目指すスタッフ

ちろん急性期の脳卒中にも迅速に対応しています。

望月秀樹診療科長（教授）は難病であるパーキンソン病の専門医で、就任後、パーキンソン病の原因や治療に関する研究のほか、最先端の遺伝子治療や再生医療など将来的な治療を目指した基礎研究も進めています。

本院の神経内科・脳卒中科では、パーキンソン病や筋萎縮性側索硬化症（ALS）、認知症などの変性疾患、多発性硬化症（MS）や重症筋無力症などの自己免疫性神経疾患、

また、希少難病の患者さんには療養生活を支える地域のネットワークが必要との観点から、今年11月、「日本難病医療ネットワーク学会」が発足し、望月科長を会長として大阪で第1回学術集会在開かれます。同学会は、医師や看護師など職種を超えて、医療とケア体制の向上を図ることを目的としており、退院後も患者さんとコミュニケーション

## 〈ホスピタルミニニュース〉

### タイ政府 腎臓内科など視察

7月10日、タイ労働省の社会保障局から総勢15名が本院を視察されました。タイは医療経済事情から、腎不全に対する代替療法として腹膜透析が第1選択とされていますが、腹膜炎の発症などが問題となっています。腎臓内科の猪阪科長と北村医師が、腹膜炎の予防対策や日本独自の腹膜透析システムなどを紹介しました。



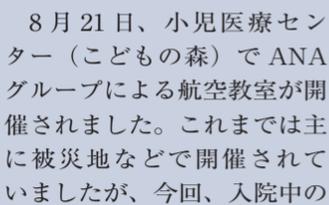
### ウッディー達がやって来た!

7月26日、外出の出来ない子供達を元気づけようと、小児医療センターにユニバーサル・スタジオ・ジャパン®からウッディー・ウッドペッカーとその仲間達がやってきました。中国独楽等を使ったパフォーマンスや皿回しリレーに続き、パフォーマーのキビートさんが顎で皿回しを始めると、一斉に拍手がわき起こりました。その後、各病室を回ってブードル等を形どった色とりどりのバルーンアートを子供達に手渡ししていくと、笑みがこぼれ歓声が上がりました。



### こどもの森がANAの機内に!

8月21日、小児医療センター（こどもの森）でANAグループによる航空教室が開催されました。これまでは主に被災地などで開催されていましたが、今回、入院中の子供達に「病気とたたかう元気を！」と、本院での開催が実現しました。子供達には搭乗券が配られ、キャビンアテンダントによるアナウンスが雰囲気を盛り上げる中、デイルームを機内に見立てた搭乗体験、モニターを見ながらの飛行機誘導体験や、ANA制服の着用など盛りだくさんの内容で、大感激の一日でした。



7月30日：一日看護師体験



9月25日：病院見学会



10月4日：秋のミニコンサート

参加者募集

### 市民公開フォーラム

遺伝性腫瘍「がん」って本当に遺伝するのー

- 日 時 12月21日(土)午後1時～3時30分
- 場 所 大阪大学医学部講義棟A講堂
- 募集人員 240名(先着順)
- 講演内容

参加費 無料

1. 遺伝性乳がん卵巣がんーなぜハリウッド女優は乳房を切除したのかー  
大阪府立成人病センター乳癌・内分泌外科 主任部長 玉木康博
2. 遺伝性卵巣がんーもしかしたら私はがん体質?ー  
大阪大学大学院医学系研究科 産科婦人科 准教授 筒井建紀
3. 自分と家族を知ることから始めるがん対策  
大阪大学医学部附属病院 遺伝子診療部 認定遺伝カウンセラー 佐藤友紀

●申込方法 はがき、ファクス、電子メールにより、氏名、参加人数(4名まで可)、性別、年齢、郵便番号、住所、電話番号を明記のうえ、下記へ送付(個人情報、本件以外の目的には使用いたしません)

宛先 〒565-0871 吹田市山田丘2-15  
大阪大学医学部附属病院総務課広報評価係  
TEL:06(6879)5020,5021 FAX:06(6879)5019  
E-mail: ibyou-soumu-kouhyo@office.osaka-u.ac.jp

●決定通知 参加の可否をはがきでお知らせします。  
※ファクスからは、**冒頭に186(番号通知)をつけて**おかけください。  
※車いす利用者など、支援が必要な方は予めお問い合わせください。

### 超音波検査センター



検査室の最新機器

#### 三次元画像を構築 より精度の高い診断

超音波検査は、超音波を発信して対象物から返ってくるエコー(反射波)をコンピュータ

処理で映像化し、診断する画像検査法です。超音波検査は、人体に大きな影響を与えないと考えられ、レントゲンに比べ頻回に繰り返すことができるため、細かい変化を見る検査に適しています。

本院の超音波検査センターは、腹部・頸部エコー、心臓エコー、末梢血管エコーの3部門に分かれています。平成24年度の検査件数は、腹部・頸部が8972件、心臓が7122件、末梢血管が993件の合計1万7087件でした。画像と動画は全て

電子カルテのサーバーに保存され、担当医師は院内端末で、随時検査結果を閲覧できます。当センタースタッフは、多様な分野の疾患に対する経験が豊富で、専門性も群を抜いており、患者さんの診断や治療に役立つ最新の機器や技術をいち早く導入できるように常に努力しています。

超音波検査の技術は大きく進歩しており、例えば心臓エコーでは、心臓の三次元画像をリアルタイムで見ながら評価することができ、弁膜疾患等においても、より正確な情報を得られるようになりました。

もう一つの大きな進歩は、非常に小型の検査機器が開発されたことです。ポータブルタイプは白衣のポケットに入る程度のサイズであり、診察時にも簡単に使用できます。将来、医師や技師に限らず、看護

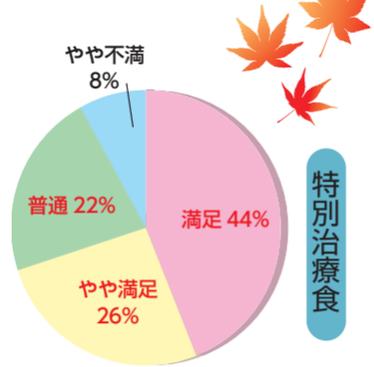
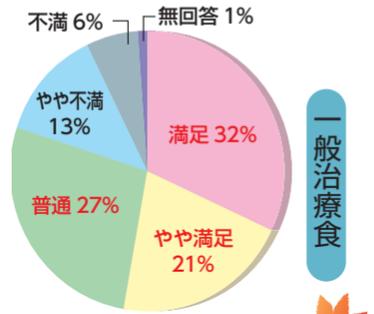
師なども機器を使える時代がやって来るかもしれません。当センターは、これからの時代に精度の高い診断を行えるよう最新技術の研究に積極的に取り組むとともに、高い技術を持った若手医師や技師を養成し、地域医療に貢献していきます。

### 入院患者さんアンケート

## 病院食で参考にしたいのは「献立、味付け」

今年6月、入院患者さんを対象に食事アンケートを実施しました。「本院のお食事に満足していますか?」との問いに対して、一般治療食の患者さんは「満足」が32%、「やや満足」21%、「普通」27%、「やや不満」13%、「不満」6%、「無回答」1%でした。特別治療食の患者さんは「満足」が44%、「やや満足」26%、「普通」22%、「やや不満」8%、「不満」0%、「無回答」0%でした。

食事アンケート「本院のお食事に満足されていますか?」



「満足」が32%、「やや満足」21%、「普通」27%、「やや不満」13%、「不満」6%、「無回答」1%の満足度の方が80%でした。特別治療食の患者さんは「満足」が44%、「やや満足」26%、「普通」22%、「やや不満」8%、「不満」0%、「無回答」0%という結果でした(グラフ参照)。

また、一般治療食の方では、全体の92%と、治療食に対する意識が非常に高いことがわかります。なかでも参考にしたい項目No.1は「献立」、No.2は「味付け」、No.3は「副食の量」でした。

「献立」と回答された方は、全体の92%と、治療食に対する意識が非常に高いことがわかります。なかでも参考にしたい項目No.1は「献立」、No.2は「味付け」、No.3は「副食の量」でした。食事への関心が少しでも高まったことは、大変うれしく思います。今後、病院食を参考にしたいだけのような献立作りと味付けの工夫に取り組みたいと考えています。